

一問一答方式（文責本人）

次期遠野市総合計画の策定に向けて

問……………

合併時の新市まちづくり計画を基本とした現在の遠野市総合計画は、平成18年に策定され平成27年度までを計画期間として各施策が実施されており、次の遠野市総合計画は、平成28年度からの計画期間となるが、合併から8年が経過し当時とは社会情勢が変わってきている。例えば、従来は経済的な豊かさを目的に掲げていたものが現在は、それに加えて住み良さや暮らしやすさも求められており、又、今まで日本が経験した事がない人口減少社会への対応等も含め、多くの課題が山積みしている状況の中で市長は、どのような理念で次期遠野市総合計画を策定するのか。

答……………

かつては、追いつき追い越せという競争の論理やB/Cという費用対効果のみで価値判断する風潮もあった。しかし時代は大きく変わり、遠野らしさを根底に置いて対応して行かなければならない。少子化対策には果敢に挑戦し、高齢化社会については素直に受け入れながらバランスをうまくとって行くということも次の計画にとつては大事であると考えているし、現在の遠野市の所得は、県内32市町村の中で18か19位で200万円を割っている状況であり、これをどのようにして、しっかりと増やして行くかという事も大事であると考えている。また、遠野は、合併

前も合併後もそれぞれの地域の底力が随所に見向けられる。それらの事を縦糸・横糸として次期総合計画を策定していきたい。

問……………

先日発表した選挙公約の10・とおの約束も計画に反映させていく考えなのか。

答……………

行政は継続である、したがって市民の皆様への考えを申し上げなければならぬということを示したものがとおの約束であり、当然次期総合計画にも反映させるといふことになる。



平成28年度からの次期総合計画策定に向けて動き出す遠野市



浅沼 幸雄 議員 (新興会)

一問一答方式（文責本人）

公共工事の随意契約の考え方・競争のあり方は

問……………

ホームページで公開されている建設工事の入札結果で、随意契約に該当する案件の現状と内訳は。

答……………

ホームページ上で公開している入札結果における適用条項の記載について、チェックミスにより21件の記載誤りがあることが判明した。指摘により直ちに正しい内容に訂正し公開しているが、再発防止に努める。適用基準についての判断は工事内容等を総合的に協議し、遠野市随意契約運用基準を定めて厳正に運用し発注している。

問……………

契約予定者選定委員会の機能や実態と、入札の競争性や透明性の確保は。 選定委員会は公平性確保のため、法令や運用基準、工事内容等を

特別警報発令時の災害弱者への周知対応は

問……………

8月30日から「特別警報」の運用が開始されたが、市内の災害時要援護者の実態は。

答……………

本年8月末現在の災害時要援護者の登録人数は1,674人で、このうち視覚障害者は



豪雨により土砂崩れが発生した現場と冠水した水田 (宮守町達曾部湯屋地区)

74人、聴覚障害者は32人である。

問……………

特別警報発令時の避難指示など、災害弱者への周知や安全の確保は。

答……………

防災行政無線、音声告知放送、テレビ等で早めに避難することを呼び掛けるとともに、関係団体と周知体制を構築し、災害弱者への安心・安全を図っていく。



瀧本 孝一 議員 (新興会)

【その他の質問】 ●「中高生のネット依存に対する教育指導や対策について」